

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－23

学校名・団体名	朝日町立朝日中学校
HPアドレス	http://www.asahi-j.tym.ed.jp/index.htm
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	私たちは忘れない ～仮設住宅の方々との心の交流をとおして～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>東日本大震災で被災し、宮城県石巻市内の仮設住宅で生活する宮城県女川町の方々との交流を図り、被災住民に対しての精神的な援助を図るとともに、生徒のボランティア精神の涵養を図る。</p>	

1 主な活動実践とその記録

(1) お手紙による文通を通じた交流 (平成27年5月、9月、10月、11月、2月に実施)

平成24年度から始まったお手紙による交流活動は、今年で4年目を迎えた。これまで先輩がどのような思いで手紙を書いたのかを考え、自分たちも思いやりの気持ちを持って手紙を書きたいと意欲的に取り組んだ。文化祭へ招待するにあたり、どのように合唱練習へ取り組んでいるかが伝わるように表現を工夫する姿が見られたり、訪問させていただいた時の思いや感謝の気持ち素直に手紙に書いたり、交流をさせていただく方々を思い出しながら手紙を作成する姿が見られた。11月には何通もの返信をいただき、いただいた手紙を嬉しそうに読む姿があった。

(2) ビデオレター (平成27年9月に実施)

生徒会ボランティア担当の生徒と文化祭の各係長が中心となり、主に文化祭へ招待するにあたり、どのような気持ちで準備活動や合唱練習に取り組んでいるかをインタビューするなどしてビデオレターを作成した。内田地区、蟹田地区の仮設住宅にそれぞれ送らせていただいた。また、文化祭へ招待するバスの中でも見ていただき、文化祭当日は、訪問していただいた蟹田地区仮設住宅自治会長の遠藤康夫さんから、このビデオレターの生徒のコメントについてもお話をいただき、作成に関わった生徒は満足そうにしていた。



(3) 文化祭へ仮設住宅の方々を招待 (平成27年10月24日に実施)

平成27年10月24日(土)に行われた、文化祭の合唱コンクールへ石巻蟹田・内田地区仮設住宅の方々24名を招待することができた。今年は午前中に行われる、3年生の総合学習での発表から見ていただき、民話劇「絵姿女房」や太鼓、祭囃子などを見ていただいた。昼食は地元特産のアケビやアップルニュートンなどの食材を使った料理を食べていただき、朝日町を味覚でも楽しんでいただいた。午後からは、歓迎の思いを全校合唱へ込めて歌いあげ、合唱コンクールをスタートさせた。合唱コンクールでは「私たちの本気の合唱を聞いていただこう」と強い気持ちでステージに立つ生徒の姿が見られた。



(4) 石巻蟹田・内田地区仮設住宅訪問 (平成27年11月28日に実施)

約50世帯の仮設住宅の方々へ、町特産のりんごを届けるため募金活動を行った。りんご以外にも朝日町でおいしいと話題のアップルパイを購入して持参した。訪問希望者を募ったところ、60名を超える希望者がいたが、仮設住宅の方々のご負担なども考慮し、約40名の生徒が直接訪問してりんごを手渡し、合唱なども披露した。今年も昼食を仮設住宅の方々が準備してくださり、海の幸を笑顔で交流しながら味わった。文化祭で中学生が本気の合唱を聞かせてくれたお礼にと、サプライズで山形の民謡である「花笠音頭」や「真室川音頭」などを仮設住宅の方々が歌ってくださり、交流会はこれまでにない温かな雰囲気で行うことができた。



2 実践による成果

これまでの手紙による交流や2年間継続して文化祭への招待できたことにより、仮設住宅の方々へ元気を届けようとする思いやりの気持ちはこれまで以上に高まった。直接的な経験により、人と人の思いを感じながら、生徒のボランティア精神の涵養が図られてきた。しかし、仮設住宅にお住まいの方々の実情としては、高齢化に加え、仮設住宅がなくなるのはまだ数年先という先の見えない状態であることは未だ変わっていない。仮設住宅の方々に負担をかけないように配慮しながら、現実をしっかりと見据えて交流の形を常に考えながら仮設住宅がなくなるその日まで心の支援をしていきたいと考える。